

The team aims

Enjoy Football

「子どもたちを『サッカーの虜』にしよう。」、育成年代のサッカー指導者の究極の目標でしょう。一生涯、何らかの形でサッカーに関わろうとする人間づくりこそ、私たちの役目だと考えています。

サッカーは野球などと違い、ある程度の戦術はあるにしろ、試合が始まったら選手自身の判断が最優先されます。卓越した技術を発揮するのも楽しさの一部ではありますが、自分で判断してその結果が報われたときこそ、本来のサッカー楽しさを味わうこととなるでしょう。

試合に勝つこともチームとしても選手個人としても大切なことですが、結果はどうあれ、子どもたちが満足して練習や試合を終え家路につく、そのことこそ、私たちが最も大切にしなければならないことでしょう。チーム全体以上にひとりひとりの子どもたちの成長に目を向け、彼らの喜びをより大切にしていきたいと考えています。

さて、サッカーの喜びとは何でしょうか。様々なところで、

- 1, 体を動かすこと : 「行動欲求」を満足させる。
- 2, できるようになること : 「達成感」を味わう。
- 3, 仲間やコーチ、保護者に認めてもらうこと : 「認知」される喜び。
- 4, 勝つこと : 「勝利」の満足感。
- 5, 仲間やコーチと協力すること : 「一体感」の喜び。
- 6, 自分自身に勝つこと : 「努力」が実る喜び。

と定義されています。これには異論はないでしょう。ただ、私たちが目の前の子どもたちに与えられる喜びの優先順位を間違っははいけません。あくまで、子どもたちのためのサッカーだということを忘れてはなりません。

それと同時に、子どもたちに自主性を養い、自律する心をも培っていかなくてはなりません。過度な命令や規制は、子どもの自立のためには弊害が多いのもまた事実です。自由な雰囲気の中、子ども自身が自分で考え判断し行動する、そんなチームづくりもまた進めていきたいと考えています。

Frontier Pride

プライドとは、「自尊心」、「誇り」などと訳されますが、ここでは「チームに関わることによって生まれるチームへの愛情や誇り」ととらえたいと思います。チームに関わる人すべてが、チームに対して愛情を抱き誇りを持つ、そんなチームを目指していきたいと思います。

チームの主役はあくまで子どもたちです。子どもたちがこのチームを築立って行くときに、「このチームにいてよかったな。」と思えるように、保護者のみなさんをはじめ、スタッフも全力でサポートしていかなくてはなりません。

そこに生まれる情熱こそ、「Frontier Pride」です。

Frontier Family

チームがあるから子どもたちはサッカーができるのです。子どもたちがサッカーすることで新たな保護者のみなさんの喜びも生まれるのです。そして、子どもたちが集まるからサッカーの指導ができるのです。厳しさの中にも笑顔あふれる選手のプレー、その選手の生活基盤を確かにする保護者のみなさん、そして、一貫した指導、それぞれが自分の役割を自覚し、チームが形成されるのです。

そこに生まれる一体感こそ「Frontier Family」の心です。それを支えるのはお互いの持つリスペクト精神であることは言うまでもありません。選手、保護者、指導者が三位一体となるチームづくりを目指します。